

報 告

第 31 回日本義肢装具学会学術大会に参加して

横浜市総合リハビリテーションセンター
地域リハビリテーション部 研究開発課 間山 歩美

1. はじめに

2015年11月7日(土)、8日(日)の2日間、神奈川県横浜市西区のパシフィコ横浜にて第31回日本義肢装具学会学術大会が開催された(図1)。横浜市立大学の水落和也先生が大会長となり、「地域リハビリテーションにおける義肢・装具・支援機器」をテーマに、多くの発表が行われた。登録参加者は1665名で、市民公開講座を含めると約1900名の参加者だった(主催者発表)。

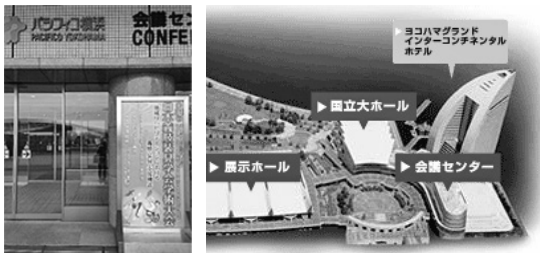


図1 パシフィコ横浜 会議センターと展示ホール

2. 学術大会概要

2日間共パシフィコ横浜会議センターと展示ホールを会場とし、211演題(一般口演134演題、ポスター60演題、動画17演題)と非常に多くの研究成果が発表された。会議センターでは、1000名収容の第1会場で大会長講演・基調講演・招待講演・教育講演が行われた。約500名収容の第2会場ではシンポジウムやパネルディスカッションを中心に、約250名収容の第3会場と第4会場では一般口演を中心に発表が行われた(図1)。それぞれの会場は十分な広さであったが、どの演題も多く参加者が聴講し、時には座席が足りないほどであった。

展示ホールでは、今回新たな試みとして動画セッションが開催され、貴重な症例等についての情報を

動画によってより多く得ることができたことから、有意義な企画であると感じた。

また、同ホールのポスターセッションは、100名近くの聴衆の中で行われたものもあった(図2)。

さらに横浜市文化観光局と共催で、市内の中学生を招き最先端の義肢装具・支援機器に触れてもらう次世代育成事業や、福祉車両の試乗が可能な商業展示など、多くの印象的な企画が盛り込まれていた。

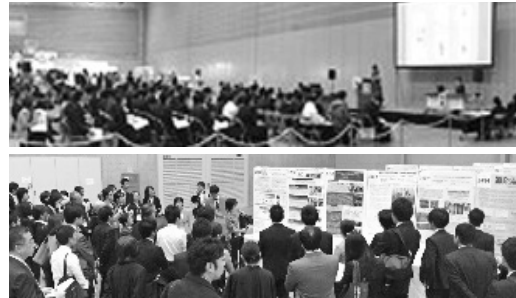


図2 動画セッション(上)とポスターセッション(下)

3. 演題内容

聴講した演題の中で特に興味深かったものは、教育講演の神奈川県立こども医療センター副院長兼肢体不自由児施設長 町田治郎先生の「小児の下肢変形に対する装具療法と手術治療」である。小児の足部と膝変形に対する装具療法と手術治療についての講演で、過去に行われていた手術方法の問題点と、改善された現在の手術方法の話などがあった。通常業務では知りえないことばかりで、非常に勉強になる内容であった。また、手術方法やそれによって得られる結果を知ること、今まで以上に義肢・装具・支援機器の提案が的確になると感じた。

4. おわりに

第31回日本義肢装具学会学術大会の運営に携わられたスタッフの方々のご尽力により、多くの講演を聞き、知見を広めることができました。ありがとうございました。今後も義肢・装具・支援機器に関する知識を得、理解を深めていきたいと思っております。

横浜市総合リハビリテーションセンター
地域リハビリテーション部 研究開発課
〒222-0035 神奈川県横浜市港北区鳥山町1770